

鋼製器具メンテナンスプログラムへのお客様の声 VOICE OF CUSTOMERS



鳥取市立病院 総務課 経営戦略室
主任 西尾 知人 様



手術器械の運用に関する情報

- 病床数：340床
- 月間オペ件数：280例（年間3,400例）
- 保有する手術器械セット数：108セット
- 保有する手術器械本数（概算）
：5,500本（病棟外来分は除く）。

BEFORE-導入前の課題

<安全性> 保有する手術器械の状態

長年使用している手術器具の状態に不安があったため、2015年8月にビーブラウンエースクラップ社（以下同社）にクイックスキャン（保有している手術器械の一部を対象に劣化状態を調査）を依頼した。その結果、経年劣化した器械が存在することが判明した。

<経済性> 修理の頻度と費用、予算計画

これまで剪刀などの修理は、製造業者ではなく、刃の研磨を行う修理業者へ依頼しており、修理後どの程度の期間（回数）使用でき、また次の修理が必要な状態に至るかを把握できていなかった。

運用上は、手術室からの依頼で修理に出すことが原則であったため、修理・更新の必要性の有無が不明瞭であった。その結果、年度ごとに修理本数、費用に変動があり、修繕・更新費の根拠が不明確なまま、予算を確保する必要があった。

<効率性> 保有する手術器械の使用状況

クイックスキャンを実施後、同社より提案のあった、手術器械セット（コンテナ）内の器材の使用状況を把握し、それに従ってスリム化を行なった。その結果、主に使用している手術器械セット（17セット）内の手術器械本数を25.6%削減することができた（1,274本→948本）。

これにより、手術器械運用の効率性を向上させ、同時に投資額を必要最小限とすべく、器材更新の準備を進められた。

しかしながら、修理・更新の必要性、手術器械の統一など様々な課題が継続検討となっていた。

AFTER-メンテナンスプログラム導入による効果

<安全性>

本プログラム導入後、手術器械の臨床での使用に関して医師からは、「切れる剪刀」、「針が滑らない持針器」との評価が得られた。

同社の修理の質、更新（器械の状態の判断）基準は信頼に値し、安全性の向上にもつながる。

<経済性> 予算

同社のメンテナンスプログラムは、定額であることから、予測の難しい修繕費・器材更新費の予算確保・執行において確実性が得られ、器械の修理・更新を効率的に行うことができるようになった。

<効率性> 管理業務

修理後の器械は、3 か月の修理保証が受けられ、修理年月が刻印されている。また、同社製品には製造年月が刻印されているため、更新の際の管理業務としても助かっている。

本プログラムでは、器械の状態が修理不能と判断された場合、自動的に新品器械に交換されるため、廃棄作業の削減、修理不能書や更新見積等の事務作業が削減された。病院側の作業は、契約本数に向けた本数カウントのみであり、非常にシンプルな取引方法として評価している。

また、交換時の手術器械の選定も事前に行っており、同一用途の器械の院内統一も並行して進行している。

今後、数年かけて適正な在庫、メンテナンスなどの手術器械の運用強化をはかり、コスト削減及び破損等のリスクマネジメントを行っていきたい。

高品質の手術器械を使用することによる医師の手術中のストレスを軽減し、最終的には医療の質向上に貢献していると感じている。

AESCULAP®-a B. Braun brand

製造販売元

ビー・ブラウンエースクラップ株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-38-16 www.bbraun.jp